2021年3月30日(火)

VOL.8 第72号

横浜市テニス協会ニュース

YOKOHAMA TENNIS ASSOCIATION NEWS

発行 横浜市テニス協会 総務部 〒231-0028 横浜市中区翁町1-5-5 関内スクエアービル306号 TEL045-663-0557 FAX045-663-0558

第45回

横浜市民スポーツ大会テニス競技シングルス

令和2年シングルス大会は、10月10日(土)～12月27日(日)17種目1235名の参加で開催されました。

新型コロナ禍での実施ということで、県テニス協会の「感染防止基本方針」に基づき対策を検討しました。参加者確認票、選手へのお願い、接触を防ぐシールド型オーダーオブプレイボード、消毒の徹底、マスク着用や掲示板での注意喚起などを行うことで、この大会から感染者を出さないため最大限の努力をしました。皆様のご協力もあり、大会関係者、選手から罹患の報告がなかったことに胸をなでおろしています。

今大会から一般本戦は、1Rから2タイブレークセット、ファイナルマッチタイブレーク(10P)としました。結果、本選ならではの熱戦がこれまで以上に展開されました。各優勝者は、、全17種目(男子11種目、女子6種目)中、男子7種目、女子5種目がシード選手、それ以外はノーシード選手でした。

今回市民大会としては、初めてエントリー費の支払いを試合初日といたしました。参加できなかった方にもお支払いいただき、運営にご協力いただきありがとうございました。今後も歴史ある大会の継続に努力してまいりますのでよろしくお願いいたします。　(競技委員長　関　宏一)

一般男子優勝　最後まで自分を信じ

小林　宰(在住)

今大会はコロナ禍の中、開催するのに多くのご苦労が有ったと思いますが、全日程が滞りなく終了したことに対し運営していただいた協会会長をはじめ役員の皆様にお礼申し上げます。

社会人になり、学生の時の様に毎日テニスができない環境で自分のテニスを模索している中、この大会に向け練習をサポートしてくれた父と兄に感謝しています。

この大会はレベルが高く、多才なプレーヤーが多いので、それに対応する技術が必要な事を感じました。3Rはサーブとストロークが速く、準決勝は正確なストロークと粘り強い守備力に苦しめられましたが、最後まで自分を信じ、積極的にプレーする事を貫きました。今回の経験を今後のテニスに生かして、また来年この大会に挑戦したいと思います。

一般男子／小林選手(優勝)、山本選手(準優勝)

一般女子優勝　無心の試合

小林　美早紀(横浜グリーンTC)

まず始めに、コロナ感染予防やその対策をし、困難な状況の下、今大会を開催し、運営してくださった横浜市テニス協会の皆様に感謝いたします。また、普段から、横浜グリーンテニスクラブの中嶋さん、メンバーの方々、応援をしていただきありがとうございます。友人や家族、周囲の方々の支えによりテニスができていることを有難く思い、実感しています。

ここ最近、試合の減少や怪我からの復帰ということもあり、試合の感覚が薄れていました。毎試合、緊張しながらコートに立っていましたが、いざコートに立ってみると、テニスができることの喜びや、感謝の気持ちでいっぱいになり、目の前のボールを返すことだけを考えて無心で試合をしていました。その結果、優勝という戦績を残すことができて、とてもうれしく思います。今後も練習をして試合に出て経験を積み、謙虚な姿勢でテニスを続けていきたいと思います。

一般女子／小林選手(優勝)、市瀬選手(準優勝)

男子35歳以上優勝　一戦一戦

長嶋　健一(GODAI港北)

第一シードというプレッシャーもありましたが、このような状況の中、試合に出場できる喜びを感じながら、一戦一戦、戦えた事が優勝という結果に結びついたと思います。

試合出場をいつもサポートして下さるGODAI港北スタッフの皆様に感謝致します。コロナ禍でも、沢山の生徒の皆様がレッスンに来て下さり、心良く試合に送り出して下さり、応援して頂き、心から感謝致します。いつもサポートしてくれる家族に感謝致します。ありがとうございました。

男子35歳以上／長嶋選手(優勝)、林選手(準優勝)

男子40歳以上優勝　特別な大会！

河村　一成(ラック港南台TG)

まず初めにこのコロナ禍で大会開催すら危ぶまれる中、しっかりとした感染予防・感染対策をし、開催して下さった横浜市テニス協会役員、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本大会期間中に愛娘が産まれました。出産予定日が試合前日ということもあり棄権も考えておりましたが、妻の「私は大丈夫だから、出場して勝って来てね。」という一言で迷いも吹っ切れ出場する事に決めました。

テニスは技術以上にメンタルが重要です。私は試合中、ミスをした時でも“大丈夫、次は入る。間違えていない。”と思うようにしています。例え間違えていたとしても…。そう思うことで前を向いて次のポイントへ挑め、戦術なども冷静に考えられるからです。私にとって“大丈夫”という言葉は魔法の一言なのです。この言葉をかけてくれた妻、いつも応援してくださる生徒の皆様へありがとうと感謝の気持ちを伝えたいです。

男子40歳以上／河村選手(優勝)、渡辺選手(準優勝)

男子45歳以上優勝　練習仲間と妻に感謝

木村　俊康(在住)

まず初めに、コロナの影響がある中、本大会の企画、運営に際しご尽力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

今年後半はレンタルコートを借りたり、練習に誘っていただいたりしてコンスタントにテニスをすることができました。今大会の好成績は間違いなくその成果です。

練習に付き合っていただいた皆さんに感謝しております。また妻からは常に前向きな言葉をかけてもらい、戦術やメンタル面でとてもプラスになりました。今大会でいくつもの接戦を勝ち切ることができたのは、妻のおかげです。

これからもテニスという素晴らしいスポーツで、心身ともに成長していきたいと思っております。

男子45歳以上／木村選手(優勝)、藤本選手(準優勝)

男子50歳以上優勝　精神と身体の充実

山内　卓(HCKS)

まずはじめに、横浜市テニス協会および大会運営に携わってくださった皆様にお礼申し上げます。この大会には5年前の決勝で負けて以来の出場でした。今回の決勝も前回と同じ長田選手との対戦になり、気持ちは昂ぶりましたが、もの凄く集中して臨めました。心技体と言われますが、大した技を持ち合わせていない私のようなプレーヤーは、精

神と身体の充実を図り、思いっきりぶつかっていくだけです。

今回の最良の結果は、万全の準備が出来たおかげと自負しております。最後になりますが、いつも切磋琢磨し合っている練習仲間たち、頑丈な身体に産んで育ててくれた両親、そして温かいサポートをし続けてくれる家族に、心から感謝しています。

男子50歳以上／山内選手（優勝）、長田選手（準優勝）

男子55歳以上優勝　無欲の勝利

福本　哲（KMG TS）

始めに、コロナ禍の中で今大会を開催して頂き、役員・関係者の方々に感謝いたします。例年にも増しての厳しい大会運営、本当にご苦労様でした。今年は殆どの試合が中止になり、夏に久しぶりに青葉区の試合に出場しました。その初戦で右ひざの内側が「ピキッ」となり、その場でリタイアしました。半月板を痛めヒアルロン酸の注射と痛み止めを飲む生活で、2か月間以上テニスが出来ませんでした。

横浜市民大会も、エントリー費を支払いがてら友達の試合観戦のつもりで初日を迎えました。少しでも痛みが出たらリタイアするつもりでの毎試合でしたが、それが普段より力まず、無理せず、ペース配分も考えた良いプレーに繋がったのかもしれません。テニスって、幾つになっても本当にわからない奥の深い競技ですね。

最後に、お世話になっているKMGや、普段練習をしている相模原グリーンの皆さんにお礼申し上げます。

男子55歳以上／福本選手（優勝）、古川選手（準優勝）

男子60歳以上優勝　強い気持ち

石田　晋（ワールドTC）

先ず最初に、この大変なコロナ禍において今大会の運営に携わった協会役員及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

市民大会の年齢別シングルにおいて念願の初優勝することができました。一昨年は、決勝で敗れてしまい、くやしかったことを思い出しながらのプレーでした。今回の決勝は、以前敗れている相手でしたので、自分のテニスを貫き攻める気持ちで、それで負けたらしかたないなと思いスタートしましたが、やはり最初は身体も固く思う様に動けませんでした。

1stセットダウンからの逆転でしたが、強い気持ちを持ち続けなおかつ、リラックスできた結果だと思います。最後に、練習に付き合っていただいた方々、寒い中応援に来て頂いた方々、ワールドテニスクラブの方々、そして休日テニスに快く送り出してくれている奥さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

男子60歳以上／石田選手（優勝）、山下選手（準優勝）

男子65歳以上優勝　課題を克服しながら

宮島　信行（ENEOS中研）

今年はコロナ禍で春先から多くの試合が中止もしくは延期でしが、対策を実施して頂きながら今大会を開催して頂いたことに、協会役員及び関係者の皆様に感謝申し上げます。

今年から60歳を卒業し、65歳以上のカテゴリーに突入しました。一番若い年代なので頑張らなければいけないと考えておりましたが、優勝出来て嬉しく思っています。

今年は日程的に他のふたつの試合と重なっていましたが、運よくピンポイントで重ならずに試合が出来たのも幸運でした。年々、体の方はきつくなりますが気持ちだけは老け込まずに、高い目標を持って地道な課題（いっぱいあるんで）を克服しながらテニスをしていければ良いと思っています。

最後になりますが、いつもテニスをして頂いている亀の甲山テニスクラブの皆様に感謝申し上げますと共に、応援に来てくれた皆様有難う御座いました。

男子65歳以上／宮島選手（優勝）、原口選手（準優勝）

男子70歳以上優勝　最後は運が味方

鉢蝋　修（IZUMI.TC）

コロナ禍で3月から10月まで、出かけられず、静かに過ごしました。よって、試合感が戻らず、何だか分からない内容でしたけれど、しっかり返すことだけを心がけ、やっとの思いで勝ち進み、優勝することが出来ました、最後は運が味方してくれた様です。クラブのみんなも喜んでくれましたし、新たなスタートが出来たとたいへん嬉しく思っています。

次回、皆さんとお目にかかれるように頑張ります。ありがとうございました。

男子70歳以上／鉢蝋選手（優勝）、東方選手（準優勝）

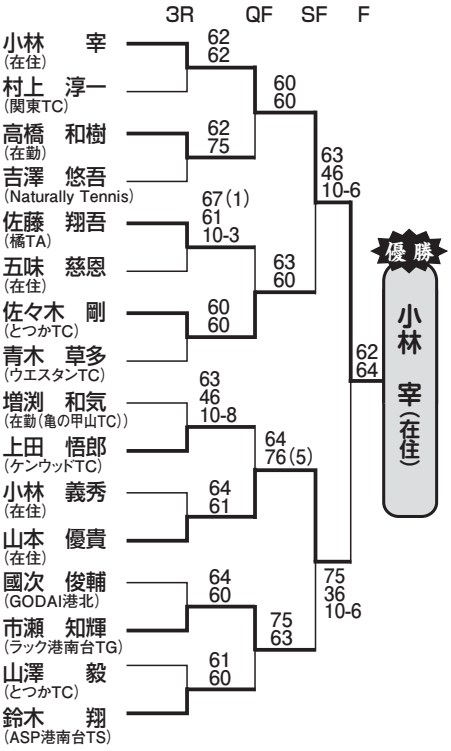
男子75歳以上優勝　次回も精進

淀川　勝男（三菱重工横浜）

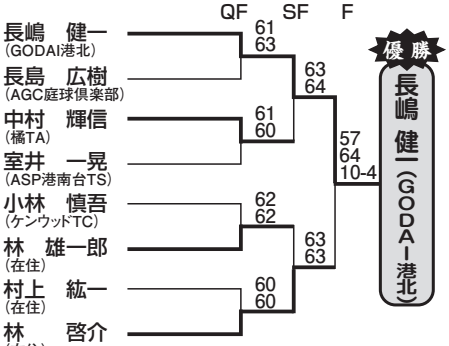
75歳初年度の昨年、エントリーはしたものの他の試合と重なり棄権したので、非常に残念でした。そのため今年度は何としても優勝したいと試

男子75歳以上／淀川選手（優勝）、細澤選手（準優勝）

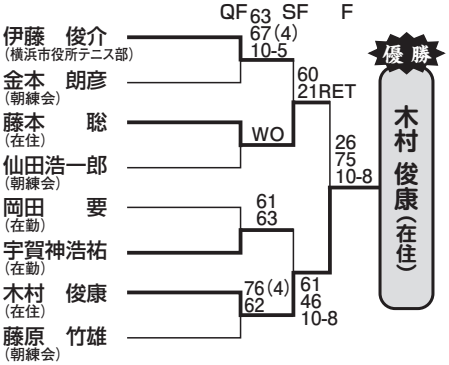
〔一般男子〕



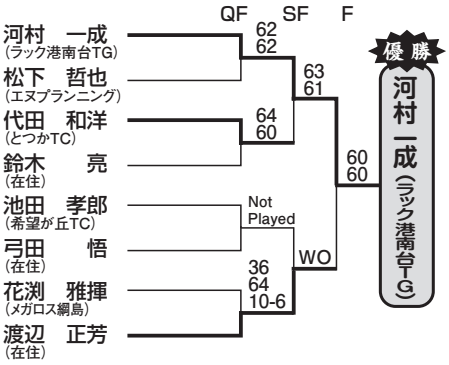
〔男子35歳以上〕



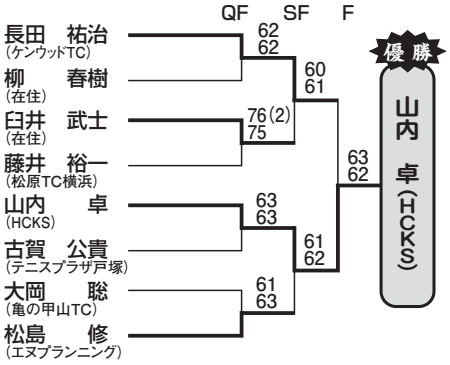
〔男子45歳以上〕



〔男子40歳以上〕



〔男子50歳以上〕



合に臨みました。望み通り優勝できて本当に良かったです。決勝戦は1セットオールとなりどちらが勝ってもおかしくない展開でした。

直近の試合で10ポイントファイナルを2試合勝ち抜いた経験が生きて、落ち着いてプレー出来たのが勝因だと思っています。次回も精進して頑張りたいと思います。

男子80歳以上優勝　2時間の試合で

津上　孟士(IZUMI.TC)

今年はこれまでに経験したことのない「コロナ騒ぎ」で開催も怪しまれていたところ、関係者のご努力により開催してくださり深く感謝します。

去年はFSで今回の対戦者の有本選手に敗れ、春先のローカル大会でも簡単な負けが続き、体力・技術力の衰えを痛感させられていました。コロナ自粛中は、主なテニス大会が軒並み中止となりましたが、幸いにも私のクラブは営業を続けてくれたので、春から秋にかけほぼ毎日基礎練習に励んだ結果、秋には自分なりに回復を実感できるようになりました。

来年85歳になる私はこの大会の参加者の最高齢になるだろうから、優勝は難しいだろうと思いながら、練習の成果を試すチャンスとおもい申込みました。決勝の対戦相手の有本さんは、今年も多くの大会で優勝している強豪なので苦戦を免れないだろうと思っていましたが、ゲームは1,2セットとも5-5となり、終盤でチャンスをものにできたほうに決まる接戦で80歳にしては長い2時間の試合を押し切ることができました。

男子80歳以上／津上選手（優勝）、有本選手（準優勝）

女子40歳以上優勝　応援がエネルギーに

新美　友紀（希望が丘TC）

横浜市テニス協会及び大会関係者の皆様、特に今年はコロナ対策にもご尽力されての運営に御礼申し上げます。希望が丘TCの皆様はじめ、日頃一緒に練習して下さる方々、家族に、元気にテニスをさせてもらえることを心から感謝します、ありがとうございます。もう悪あがきせず年齢別にエントリーしましたが、最後まで試合をやりきれて嬉しいです。

一般とは違う前後にも揺さぶられるボール運びの壁に何度も心が折れそうになりましたが、見守ってくれていた先輩方と練習仲間からの応援が、拾って粘るエネルギーになりました。シングルスはコート上で1人寂しい時も多々ありますが、良くも悪くも自分の精神力と技術に向き合える時間。これからも健康に感謝・留意して、チャレンジしつつテニスを楽しんで行きたいです。

女子40歳以上／新美選手（優勝）、小松選手（準優勝）

女子45歳以上優勝　諦めずに自分のテニスに徹し

平沼　秋（横浜スポーツマンクラブ）

始めにコロナ禍の厳しい折、大会を安全に開催・運営していただいたテニス協会関係各位の皆様に厚く御礼申し上げます。

市民シングルスは、私にとってなかなか勝ち切れない高い壁でした。悔しい思いをし、再挑戦するもまた勝てず、そんな中再び臨んだ今大会でやっと勝ち切ることが出来ました。

決勝は手の内を知り合う友人との対戦でしたが、第1セットを奪うも第2セットは攻撃に押され、ファイナルセットもリードされました。でも諦めずに自分のテニスに徹し気付いたら逆転勝利し、嬉しいというより信じられない気持ちでした。

日々一緒に練習してくれている仲間やコーチからの言葉が、崖っぷちで大きなパワーとなりました。コート上ではひとりでも最後まで心折れずに自分を信じてプレー出来たのは、皆さんのおかげだと感謝しております。これからも共に挑戦し続けたいと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

女子45歳以上／平沼選手（優勝）、山川選手（準優勝）

女子50歳以上優勝　初めての優勝

奥山　律子（Vamos）

まず初めに横浜市テニス協会及び大会の運営に携わって下さった皆様にお礼申し上げます。コロナ渦でいろいろな試合が中止や延期になる中、役員の皆様のおかげで安心して試合をする事ができました。

初めての優勝はとても嬉しく自信にもなりました。これからも怪我に気をつけ体力が落ちないようにトレーニングを積んで行きたいと思います。私に関わってくださっている全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

女子50歳以上／奥山選手（優勝）、松田選手（準優勝）

女子55歳以上優勝　自分自身との戦いの場

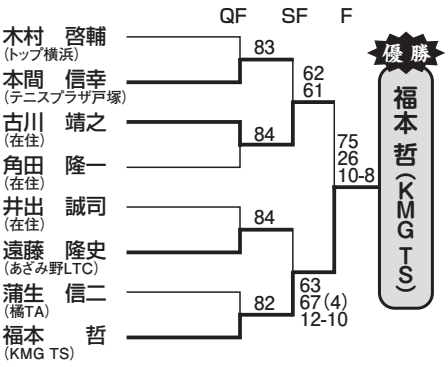
兼松　里衣（ケンウッドTC）

2020年は、緊急事態宣言でテニスクラブが休業になったり、公営コートが使えなくなったり、自粛ムードが続く中、テニスに行くことにさえ後ろめたさを感じたり、異例ずくめの1年でした。それもあって、太陽の下で汗をかき仲間と一緒にテニスできる楽しさ、テニスができて幸せだということを再認識できた1年でもあった気がします。

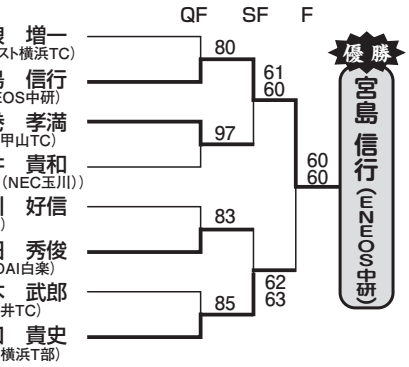
私にとって試合は、自分自身との戦いの場だと思っています。緊張でボールをよく見ていない自分、足を動かせていない自分、アウトが怖くてラケットが振りきれない自分、ミスを引きずる自分。そんな

女子55歳以上／兼松選手（優勝）、鈴木選手（準優勝）

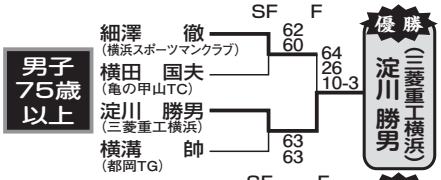
〔男子55歳以上〕



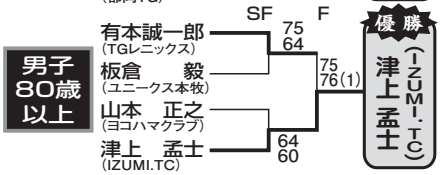
〔男子65歳以上〕



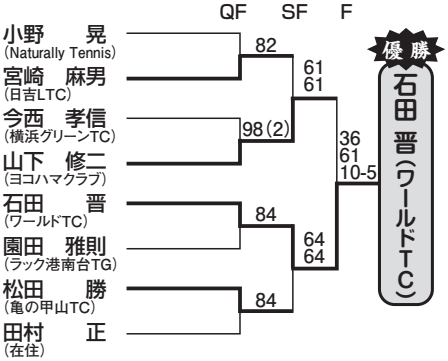
男子75歳以上



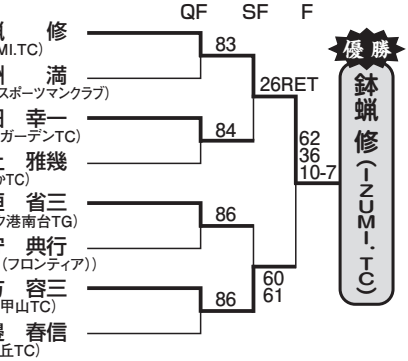
男子80歳以上



〔男子60歳以上〕



〔男子70歳以上〕



ホームページ改訂と独自ネットエントリーシステムについて

現行の横浜市テニス協会ホームページをパソコン・スマホ・タブレットそれぞれからの閲覧を見易くするためと情報の更新を迅速にするために、管理システムとレイアウトデザインの全面リニューアルを行い、令和2年8月3日にリリースしました。

また、オンラインで容易に大会申し込みが出来るようにするために、市民ミックス大会と市民ダブルス大会から協会独自のネットエントリーシステムの運用を開始しました。今後は、市民親子ダブルス大会大会、市民シングルス大会でも採用する予定です。

ホームページとネットエントリーシステムに対する使い勝手などの要望は、横浜市テニス協会の次のメールアドレス宛に連絡をお願いします。

info@yokohama-tennis.jp

弱い自分に克ちたくて試合に臨みました。コロナ禍で開催さえ危ぶまれた中、このような大きな大会を運営して下さった協会関係者の皆様方に感謝申し上げます。

最後に、クラブのオーナー、一緒に練習して下さった大のテニス好きの仲間達、テニスバカを暖かく見守ってくれた家族に。どうもありがとうございました。

女子60歳以上優勝　感謝の気持ちでいっぱい

山口　淳子（ウエスト横浜TC）

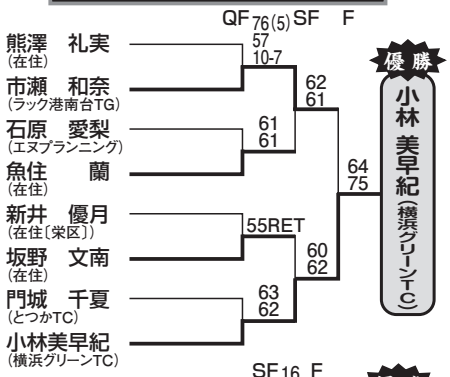
今年はカテゴリーが一つ上がり、今まで対戦したことのない方々との試合を楽しもう、と挑んだ一年でした。しかし、例年とは全く違った状況となり、友人と会いテニスやお喋りを楽しむ…そんな日常がいかに大切かを強く感じた一年となりました。

本大会ではノーアドも多く、特に決勝はどちらに転ぶか分からないポイントの連続でスコア以上に厳しい内容でしたが、結果として優勝することが出来たことを大変嬉しく思います。いつも練習、応援してくれるウエスト横浜テニスクラブの皆さん、上手くいかない時にも変わらず声をかけ励ましてくれる友人やコーチ、そして日頃からテニスに理解があり休日には一緒に練習してくれる家族に感謝の気持ちでいっぱいです。

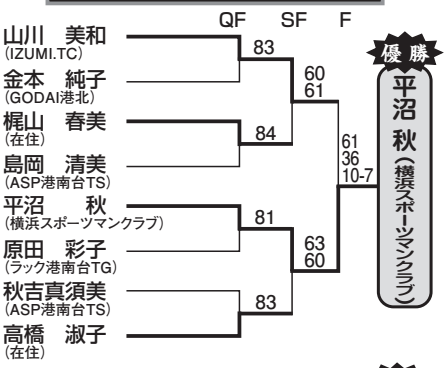
最後になりましたが、本大会開催にご尽力いただいた横浜市テニス協会の役員及び関係者の皆様、最後まで気持ち良くプレイすることが出来ました。心より御礼申し上げます。始めにコロナ禍で大変な状況下で大会を運営して下さいました横浜市テニス協会、関係者の皆様にお礼を申し上げます。

女子60歳以上／山口選手（優勝）、和田選手（準優勝）

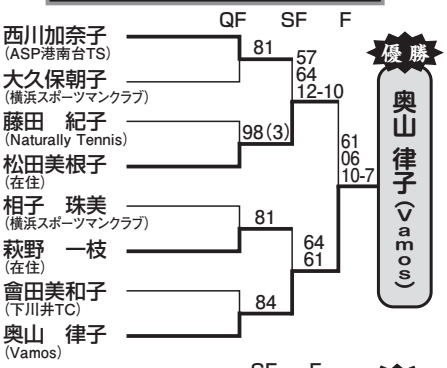
〔一般女子〕



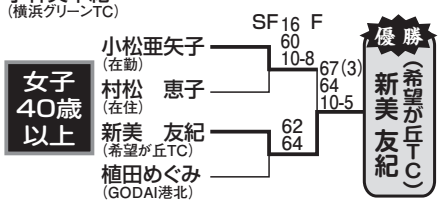
〔女子45歳以上〕



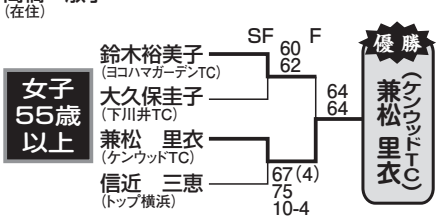
〔女子50歳以上〕



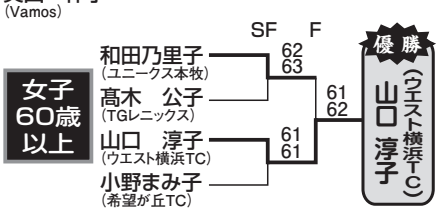
女子40歳以上



女子55歳以上



女子60歳以上



横浜市テニス協会の100周年記念事業のお知らせとお願い

横浜市テニス協会は1922年（大正11年）に設立されて以来、各種大会運営をはじめテニス教室等、様々な活動を行い横浜のテニス発展に努めて参りました。来年の2022年（令和4年）には、めでたく創立100周年を迎えるため、記念事業として、100周年記念誌の発行をはじめ、記念イベントや記念式典の開催を予定しております。

1 100周年記念誌の発行

☆記念誌の主な構成は我が国に伝来し、テニスが普及、発展してきた歴史を振り返り、協会が果たしてきた実績をまとめ、各種大会・イベント等の実施内容やテニスの普及発展に果たしてこられた方々の紹介や各加盟団体の活動状況の紹介をさせて頂く予定です。そのため、加盟団体の皆様には団体紹介の原稿及び写真等のご提供をお願いしているところです。100周年記念誌に相応しく充実した内容とします。

☆100周年記念誌に相応しい充実した内容とするため、各メーカー様をはじめ、各加盟団体の皆様方からも幅広く広告掲載を頂きたいと考えておりますので、皆様方のご協力を是非お願い致します。

2 100周年記念式典

☆横浜のテニスの普及・発展に貢献された方々や、協会活動に尽力された方々や大会のスポーツ、テニスの各上部団体の代表者や、協会活動に尽力された方々や、優秀選手をはじめ、加盟団体の代表者の方々、更にテニス関係団体の方々にお集まり頂き、記念式典の開催を予定しています。

☆開催時期については、来年の2022年に100周年を迎えますが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、多人数での会合の開催が難しいことや、各種大会等が中止となり、協会事業運営が財政面でも厳しい状況となっているため、開催時期の延期等を含め、今後、総合的に判断していきたいと考えております。

【お願い】記念誌作成の資料となる過去の古い資料や大会プログラム等をお持ちの方は是非、協会事務局にご一報頂ければ幸いです。

［連絡先］　横浜市テニス協会　事務局　（原則 月・水・金 9:30～16:30）
横浜市中区翁町1-5-5 関内スクエアビル 306号 TEL.045-663-0557、FAX.045-663-0558
E-mail　info@yokohama-tennis.jp

令和2年度行事実施状況

令和2年3月以降は、新型コロナウイルス感染拡大防止対応において政府、神奈川県、横浜市、日本テニス協会等からの要請および、新規感染者数、病床使用率、療養者数等の状況から判断し、次の表のとおり、令和2年度の横浜市テニス協会主催・共催の大会を中止としました。令和3年度につきましても、参加される選手の方々はもちろんの事、大会運営をする役員や全ての関係者の安全と生命を守ることを最優先にし、実施の場合には感染防止対策を徹底して運営していきますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

年	月	横浜市テニス協会関係	対応	備考
2020年	4月	第74回市民大会ダブルス	中止	4/4～
		全日本都市対抗テニス大会県予選	中止	4/4,4/5
		市民春期シニアテニス教室	中止	4/7～
		市民テニス教室	4,5,7月まで中止	4/19
		第70回実業団対抗	中止	3/8～
	5月	横浜ベテラン5月オープン大会	中止	5/7～
		ねんりんピック横浜大会選考会	中止	
		新横浜カップ(泉の陣)	中止	5/16
		令和2年度定期総会	書面開催	5/12
	6月	中学校テニス部員講習会	中止	
		新横浜6月オープン大会	中止	
	7月	第57回横浜市団体戦	中止	7/5～
		第17回都市間交流スポーツ大会	次年度に延期	名古屋市
		運営講習会	中止	7/15,11/16
		ジュニア庭球力向上事業	中止	7/18～
		横浜サマージュニア	中止	7/28～
	8月	横浜ベテラン8月オープン大会	中止	8/11～
		第71回実業団大会	中止	8/29～
		第13回親子ダブルス	中止	8/2～
	9月	市民秋季シニアテニス教室	中止	9/1～
		市民マスターズ	中止	9/2
		テニスの日	中止	9/23
		市民テニス教室	再開	9/20
	10月	第45回市民大会シングルス	実施	10/10～12/28
		新横浜カップ(秋大会)	中止	10/10
		市民テニス教室	再開	10/18
		横浜オータムベテラン	実施	10/20～
	11月	第45回市民大会シングルス	実施	
		市民テニス教室	実施	11/15
	12月	第45回市民大会シングルス	実施	～12/28
2021年	1月	第27回横浜ジュニアトーナメント	途中で中止	1/4,5,6のみ実施
		第41回室内選手権大会	中止	1/15,16,17
	2月	第20回市民大会ミックス	中止	2/11～
	3月	第71回実業団大会	中止	3/6～

市民テニス教室

令和2年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から4月から7月までの3回は中止となりました。9月から11月までの教室は、この事業が横浜市テニス協会主催、横浜市民局及び（公財）横浜市体育協会後援で開催され、長年にわたり市民のテニス愛好家の皆さんにご好評をいただいていたこともあり、直前まで開催の可否に迷いましたが、感染拡大防止策（アルコール消毒、検温、確認票提出、1面の受講者制限、レッスン内容の変更等）をしっかりととりながら本牧市民公園コート8面で実施しました。残念ながらジュニアの参加は見送り、指導員も最低限の人数で対応しましたが、天気に恵まれ、午前、午後合わせて延べ242名の方にご参加いただきました。

2021年度も、感染拡大防止対策をとりながら、多くの方に安心して楽しんでいただけるよう、皆様のご参加をお待ちしています。4月から実施の予定ですが、途中からのご参加も可能ですので、横浜市テニス協会ホームページ等で実施要項をご確認いただき、万障繰り合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

好評連載 テニスプレーヤーのためのスポーツ医学 70

横浜市テニス協会 発足100年に寄せて —横浜のテニスの歴史—

日本スポーツ協会公認スポーツドクター医学博士 及能茂道（きゅうのうしげみち）

大正11年に発足した横浜市テニス協会は来年100周年を迎えます。私は初代会長平沼亮三氏とは家族ぐるみのご縁があり、戦後の会長の方々にはコートでお相手いただきご指導いただきました。横浜のテニスを知る最古参の一人として、今回はスポーツ医学を離れて横浜のテニスの歴史をあらためて紹介いたします。

横浜のテニス事始め

1853年（嘉永6年）に米国のペリー提督が200年以上の鎖国政策の江戸に押しかけたことにより、幕府は1859年に初めて横浜を開港しました。横浜は欧米文化の流入の窓口として、いわゆる文明開化の先端をきることとなり、英米を筆頭に独仏蘭などから、外交官,貿易商、宣教師などが続々と横浜に来て、外人居留地を設立しました。事務所は関内に設け、住宅の多くは山手の丘を切り開いて作られました。ビール、石鹸、ガス灯、電話など横浜から発祥して全国にひろがったものをあげるときりがありませんが、外国人たちは居留地のなかに故国でおこなわれていたスポーツをもちこんで楽しみ始めました。日本にはなかったクリケット、競馬、ベースボール、フットボールなどのスポーツで、テニスもその一つです。それらの欧米出身のスポーツが幕末から明治初期に一斉に横浜に上陸しました。

日本には古来、武術や相撲などの遊びがありましたが、ボール競技はありませんでした。クロッケーは芝生の上で、木槌で木のボールを打ち、狭いゲートを通過させて得点を争うゲームで、婦女子に適当なスポーツであったため居留地で最初に行われました。フットボールは1866年（慶応2年）、ベースボールは1871年（明治4年）、ローンテニスは1876年（明治9年）に横浜で初めに行われました。

テニスの前身になったのは、中世欧州の城や僧院で普及していたスカッシュのような室内ゲームのラケットボールと、16～17世紀に英仏の貴族、王侯、僧侶達の中で流行り、後ろの壁も利用されたコートテニスで、コートも長方形でなく、ネットも高かった様子でした。コートテニスを改良して芝生のクロッケーコートにラインを引いて行われるようになったのが近代テニスの始まりで、近代テニスはローンテニスといわれました。横浜では居留地の横浜公園に1874年（明治7年）にクリケットグラウンドが完成し、2年後の1876年にローンテニスクラブも使用するようになりました。1876年6月17日号ジャパン・ウィークリーメールには山手公園でテニスがプレーされている記事が載っていますが、これが日本で初めて外国人によりテニスがプレーされた記録となっています。

日本の近代医学の創始者と言われる米国人のヘボンとシモンズが1859年に医療と伝道を志して相次いで夫妻で横浜に上陸したことは、横浜にとって大恩恵となり、ともに宣教師を辞して医療に専念し、シモンズは横浜市立大学医学部の前身となる横浜十全医院を創立しました。また、山手居留地のシモンズ邸にはスポーツ好きの夫人のためにテニスコートがあり、友人たちが遊びにきていました。

日本庭球発祥之地

1876年（明治9年）に山手公園の一角に5面のテニスコートができました。優雅だが退屈なクロッケーに飽きた数少ないご婦人がたは、新しい活動的なスポーツであるローンテニスに郷愁の思いをまぎらわせていたのではないでしょうか。1877年には現代のルールになってウィンブルドンで第1回の全英大会が開催されているが、その翌年の1878年（明治11年）7月に女性だけで我国最初のテニスクラブである「レディース・ローンテニス・アンド・クロッケー・クラブLLT&CC」を発足させました。その初代会長になったのはアイルランドから海軍軍医として来日、シモンズの後任として十全病院に勤務し、後に山手病院院長となり、名医の評判のE.ウィーラー医師の夫人でした。

日本のテニス発祥の地については、先に神戸で外国人がプレーしていたとか、長崎の出島ではないかと詮議されていますが、神戸の開港は横浜に遅れること9年後であり、長崎の開港は横浜と同年で、スコットランド出身で日本の近代化に貢献したグラバーの邸宅にはテニスコートがあったと言われていますが、根拠となる明確な史料、文献はないようです。

LLT&CCは昭和27年米軍の接収解除後に日本人会員も入会し、現在は横浜インターナショナルテニスコミュニティー（YITC）として伝統と歴史が引き継がれています。YITCは1978年（昭和53年）日本テニス協会より「日本庭球発祥之地」と認定され、発祥当時からあったとされるコート整備用のローラーを削った石面に安部民雄先生の揮毫による同文字が刻まれた記念碑が製作されました。

日本の軟式テニスの誕生

西洋文明をとりいれて富国強兵をめざした明治政府は、外国人婦女子がボールを打ち合う姿をみてかどうか、強健な青少年を育てることを急務としました。

1878年政府はボストンから体操教師としてドクター・A・G・リーランドを招聘して、翌年体操伝習所を開設しました。伝習所は1886年（明治19年）に東京高等師範（後の東京教育大学）に吸収され、そこでは全国の師範生が講習を受け、その生徒は後に教師として赴任した全国の学校で体育の指導普及にあたった。リーランドは体操とともに体育生理学や体操の一環としてベースボール、フットボール、クリケット、ボートなど多くのスポーツを伝授し、米国からそれらの運動器具を輸入しました。その中にはテニスのラケットとボールもあったものの、テニスの用具はいずれも高価で日本人の手の届くものではなかったので、日本人はゴムボールとラケットを作って始めたのが軟式テニスです。軟式は多少デコボコのグラウンドでも打ち合え、バックネットもなくても済むことから、中学、高校には野球場と並んでテニスコートが普及し、日本のテニスは軟式として出発しました。

フットボールもベースボールも地方の師範附属校で盛んになり、軟式テニスは後に高崎から清水善造が、渋川から佐藤次郎と、世界的な選手が地方から輩出しています。日本は外国から多くを取り入れ、試行錯誤を重ねて自分たちの血肉とする文化があり、軟式テニスもその一例でした。

軟式から世界へ

硬式は金がかかり一部のエリートたちのもの、軟式は庶民のものとされ、全国各地で野球とともに軟式テニスが黄金時代のころ、慶応大学は1913年（大正2年）に初めて硬式を採用しました。慶応大学の熊谷一弥は硬式に転向して僅か3年後の1916年（大正5年）に初渡米し世界に名乗りをあげました。またカルカッタから欧州に転戦した清水善造は1920年（大正9年）ウィンブルドンでチルデンに善戦し一躍世界のヒノキ舞台に立ちました。その年に滞米中の朝吹常吉は日本のデ杯戦参加に向けて奔走し、全米テニス協会会長から出場を認められ、そのために日本の庭球協会の設立に力を注ぎました。翌1921年（大正10年）に熊谷、清水,柏尾の日本チームは予想外に勝ち進み、何とチャレンジラウンドで米国と対戦し敗れたものの、その出場分配金は当時の日本にとっては大金で、その資金を基に1922年（大正11年）に正式に日本庭球協会が結成されました。

横浜庭球協会の誕生

横浜の学校で最初にテニスを始めたのは横浜商業高校（Y校）で1899（明治32）年に庭球部がつくられ、早稲田大学をはじめ東京の各大学とも対戦し好成績をあげるようになりました。1905（明治38）年に外人クラブの挑戦を受け、横浜公園の芝生で対戦したのが、横浜での最初の硬式テニスで、初めての国際試合でした。横浜には外国人のテニスクラブはあったものの日本人が楽しむテニスコートやクラブはなく、全国各地で個人がコートを作っていたように、本牧や沢渡の個人邸にはコートがありました。

1922（大正11）年日本庭球協会結成と同時に横浜庭球協会が誕生し初代会長に生粋の横浜人の平沼亮三が就任しました。慶応大学出身で日本のスポーツ界の発展に貢献した重鎮で、三ッ沢の自宅にはテニスコートもあり、横浜のテニスも平沼亮三なしには語れず、戦後のテニスの発展に貢献しました。1911（明治44）年大日本体育協会副会長を皮切りに、日本の陸上競技、バレーボール、体操などの競技連盟の会長に就任、オリンピック選手団長、大日本体育協会会長の要職を務め、1955（昭和30）年スポーツ界として初めての文化勲章を受章されました。

戦後の横浜のテニス

横浜公園と山手公園は1952（昭和27）年まで米軍に接収されていましたが、横浜のテニス愛好者たちは1948（昭和23）年横浜公園のコート2面を進駐軍の好意で借りたり、大学のコートでプレーし、横浜ローンテニスクラブ結成の機運が高まりました。1948（昭和23）年11月に横浜市体育協会が再建されると同時に横浜庭球協会（横浜ローンテニス協会）が復活し、依田安豊が会長に就任し、横浜ローンテニスクラブが協会の運営業務を担っていました。依田安豊は1923（大正12）年東京医専時代に全日本軟式庭球大会に優勝した軟式の名選手で、戦後に西区花咲町で眼科医院を開設し、硬式に転向しました。昭和27年神奈川県庭球協会創設に尽力し、昭和28年同会長を務めました。

1953（昭和28）年駐留軍から接収解除された山手公園に4面の市営コートが平沼市長の計らいで完成し、庭球協会を運営する横浜ローンの優先使用が認められていました。1956（昭和31）年に協会と一体であった横浜ローンを分離して横浜庭球協会が再出発しました。会長八十川武雄は松江出身で早稲田大学当時、1923（大正12）年全日本ランク10位と活躍し、1927（昭和2）年上海での極東大会の監督を務めました。温厚、真摯、謙虚な人柄で、プレー振りも紳士的で、人望が厚い会長で、特筆すべきは1977（昭和52）年に横浜庭球協会創立50年記念として刊行した「横浜のテニス100年史」は横浜のみならず日本

のテニス界にとっても貴重な写真や資料が収められています。

1979（昭和54）年からの高林茂男会長は横浜弁護士会会長も務め、プレーは軟式そのままのプレー振りでした。

1982（昭和57）年から6年間は矢崎茂三が会長を務め、後に会長を引き継いだ小堀秀夫理事長が実務一切を担っていた。1985年（昭和60年）に現在会長の日下啓二が中心となりテニス協会誌を創刊しました。矢崎茂三は京都大学医学部在学中に佐藤次郎と3度対戦し、1929（昭和4）年全日本ランキング8位を記録し、医学部生でなければデ杯候補選手間違いないと言われ、戦後依田安豊等と横浜ローンの発足の中心となり、壮年プレーヤーとして45歳以上の全日本ランキングに20年以上位置し、全国的に横浜ローンの名をひろめ、横浜のテニスの発展に貢献しました。

横浜で開催したデビスカップ

横浜では全国的な規模の大会を開催した実績がなく、横浜市テニス協会は室内コートを擁し全国大会が開催できる施設の新設を長年要望していました。国際テニス界の最大イベントであるデビスカップが横浜の地で2回開催され、私はトーナメントドクターとして両試合を観戦しました。1981年にデ杯はスポンサーを採用し、日本のNECがデ杯史上初めてのタイトル・スポンサーとなり、「NECデビスカップ」と称されることになりました。競技制度が現行のワールドグループ制になり、その見返りではありませんが、日本は最強16か国のワールドグループに選ばれ、記念すべき大会の開催地に横浜が選ばれました。

1981（昭和56）年3月　横浜文化体育館で開催されたワールドグループ1回戦対スウエーデン戦は福井烈、神和住純、平井健一、西尾茂之の日本の最強メンバーがボルグを欠いたスウエーデンに立ち向かいました。対戦前は勝利の期待も抱かれていましたが、NECデ杯の幕開けには余りに惨めな0－5の敗北でした。

2000（平成12）年4月　横浜国際プールを会場にして、アジア・オセアニアゾーン・グループ1部プレーオフでレバノンと対戦し,ようやく1部残留を決めました。横浜に本格的な室内コートの建設が要望された頃もありましたが、現在は思いもよらぬ新型コロナ禍でスポーツ界も大苦境に陥り、その要望は夢のまた夢とかしました。

あとがき

横浜は日本庭球発祥の地です。外国人が外国人居留地で始めたものですが、その美しい山手公園にYITCの会員の方々がその歴史を引き継いでいることは偉大なことであり、横浜市テニス協会にとりましても大きな財産です。その一方、横浜には戦前から伝統的なコートや大会がなかったのは残念なことです。

本文のテニス草創の頃の歴史的な内容は、「横浜のテニス100年史」と横浜インターナショナルテニスコミュニティー（YITC）の資料に基づいて記載し、鳴海正泰氏の著書「テニス明治誌」（中公新書　昭和55年）を参考にして引用させていただきました。鳴海さんは山手のテニス発祥記念館の名誉館長として、記念館の運営、資料などの充実に取り組んでこられましたが、本年2月に急逝されました。茲にこの拙文を捧げて追悼申し上げるとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

テニススクール実施中

（公財）横浜市体育協会主催のテニス教室

新横浜テニスコートで実施。コートサーフェスはUSオープンで使用されているものと同じデコターフです。詳しくは当協会のホームページをご参照下さい。

協会インフォメーション

《令和3年度横浜市テニス協会行事予定》

- ◘4月3日～　市民大会ダブルス開始
- ◘9月7日～11月　市民シニアテニス教室（山手）毎週火曜日
- ◘4月～11月の毎月1回（7、8月を除く）市民テニス教室
- ◘5月6日　ねんりんピック選考会
- ◘5月　横浜市団体戦募集、7月4日開始
- ◘6月　市民大会親子ダブルス募集、8月7日開始
- ◘7月4日、11月13日　審判講習会
- ◘7月10、11日　都市間交流スポーツ大会（名古屋市）
- ◘7月24日～8月14日　横浜ジュニア強化練習
- ◘8月　市民大会シングルス募集、10月3日開始
- ◘8月　市民マスターズ大会募集、9月7日、順延日10月5日
- ◘9月23日　テニスの日(本牧)
- ◘10月　横浜ジュニア大会募集、1月4日開始
- ◘12月　市民大会ミックス募集、2月5日開始
- ◘令和4年1月14、15、16日　横浜選抜室内選手権大会
- ◘令和4年2月　市民大会ダブルス募集、4月開始

（令和3年3月18日現在）

横浜市テニス協会加盟団体内訳

営業クラブ（スクールも含む）	64団体
実業団	44団体
同好会	34団体
その他	4団体
合　計	146団体

ホームページのご案内

★テニスに関する各種の情報を始め、大会の実施案内や日程等をお知らせするためにホームページを開設しています。
https://yokohama-tennis.jp/